THE ROTARY CLUB OF YAMATO—NAKA

大和中ロータリークラブ会報

YOU ARE THE KEY あなたが鍵です

1985～'86 R.I 会長 エドワード F カドマン

上田会長 クラブターゲット 仲よく 語ろう ロータリー

第 368 回 例会 60 年 10 月 31 日 第 374 号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
56 名	40 名	72.73%	98.18%

欠席者（15名）病欠（1名）
芦田 原田 細野 金井 菊地 木村 古田土 三浦 大西 染矢 竹本 高橋 寺田 土屋 辻

≪ゲスト≫

井川博之氏（大和市教育委員会社会教育部長）

≪ビジター≫

岩田 章君（東京町田） 石黒 茂君（東京町田中） 渋谷米吉君（綾瀬） 山地旦士君（大和田園） 星 幸男君 土屋 巌君 竹中滋治君 小泉和夫君 黒田忠男君（大和）

≪会長報告≫

◦星前特別代表より先日お話がございまして決議23—34が削除されましたことにつきまして今いろいろ討議がなされておりますが、近くＲＩに於きまして改めて討議がなされるという事です。津田パストガバナーがこれにご出席になります。つきましては当 259 地区のコンセンサスをえておきたいという事で、11月14日津田パストガバナーの卓話をいたゞく事になりました。卓話のあと討議の時間を持つ予定にしておりますので今からご予定を組んでいたゞきたいと思います。

1981 年度版の手続要覧には社会奉仕という所に決議23—34が載っておりますのでお読み下さい。ブルーの表紙の手続要覧をお持ちの方はこれが削除されたものですのでコピーをお渡し致します。

ロータリーの友の今年度 2 月号にガバナー達がディスカッションをしておられる記事が載っております。又**今年度会長挨拶（7 月 4 日の会報）**にすこし触れておりますので、以上３つを熟読していただき、パストガバナーのお話を聞き言いたいことをいっていたゞきたいと思います。

≪幹事報告≫

◦本日例会後臨時理事役員会を開催致します。

本日のプログラム	11 月 7 日
上田利久君「小児科の窓から」	
次週予定	11 月 14 日
津田 進パストガバナー「決議23－34号の行方」	

司会 SAA 伊藤英夫君

ソングリーダー 北砂富三君「奉仕の理想」

1．真実かどうか
2．みんなに公平か
3．好意と友情を深めるか
4．みんなのためになるかどうか

事務所：大和市中央１－５－４０
大和市商工会館内
☎０４６２－６３－７９２６
例会場：大和市大和南１－４－４
八千代信用金庫大和支店４階
☎０４６２－６４－３６５４

例会日：毎週木曜日12時30分より
会長：上田利久
会長イレクト：藤田重成
副会長：富沢重徳
幹事：近藤富士男
会報委員：松崎・種ケ島・木村

≪ゲストスピーカー≫　　井川博之氏

「古くて新しいふれあい教育」

紹介：氏は昭和28年に大和市役所に入られまして以後32年目を迎えられたそうです。大和市の行政につきましてはヴェテランでいらっしゃいまして、現在は市の教育委員会の社会教育部長としてご活躍されておられます。本日は大和市の触れ合い教育についてお話を伺います。（古木）

触れ合いという言葉は最近どこでも耳にする言葉です。〝自然との触れ合い〟〝動物との触れ合い〟〝人と人との触れ合い〟そして最終的には〝心と心との触れ合い〟という事になろうかと思います。いずれにしましても触れ合いという事ですので主体が自分側にあるのではなかろうかと思います。自分の方から積極的に相手側に近づこうというような姿勢がございませんとなかなか触れ合いが出てきません。理解しよう、相手を尊重しよう、協調しあっていこう。その相手方も特定しない、出来るだけ広く全体的に取り組んでいこう。こういうことが触れ合いかと思います。

最近この触れ合い運動を高めていこうという機運が高まって参りまして、市内でも「健康まつり」「地区体育祭」「触れ合い広場」こういう催しが地域総ぐるみで行なわれるようになりました。大変有難いと思っております。相手を探求しながら自分もそれに通じ合っていこう、というのが触れ合いではないかと思います。触れ合い即、相手方が何らかの形であるのだろう。個人的に自分だけの内面的な趣向で終ってしまうということは触れ合いではない。やはり積極的に外面的な触れ合い、外面的な接触、そういうものがなければ触れ合いではなかろう。そして考えてみますと触れ合いは実践活動が出てくるのではなかろうかと思います。実践活動といゝますのがなかなか〝何となく恥かしい〟とか〝取りくみにくい〟、〝時間がない〟、相手がのってこない〟、〝お互いに理解されない〟。そういう事から座礁しがちでしたが、最近は各地域で大変盛んにふれ合い広場運動が行なわれるようになりました。昔はこの触れ合いが非常に盛んだったと思います。和やかな心の通じあったものがあったのではないかと思います。しかし昭和30年代以降、日本が歴史的な飛躍を致しました為に、大変な早さで社会が急激な変化をして参りました。最近よく耳にします単身赴任の問題。これなどもそういう経済構造がそういうものを要求してきてしまった。そういう世代に育っている我々、子供達。世代を越えて生活を共にするということが出来なくなってきている今日。こういうことが現在どのような影響として出ているのであろうか。一緒に住むべきものが別れるという事は、心が分離してしまう。なかなか触れ合おうと思っても触れ合うことが出来ない。そういうことがあろうかと思います。祖先が長い間、コツコツと築いてきた文化生活環境が大変な早さで歯車をまわしてしまったもので私達の文化生活環境が自分の心のゆとりの中で溶け合うことが出来なかった。こういう事から人間疎外現象といゝますか人間性が失なわれてきたというように言われております。しかし文明発達の一過程でこういう現象がおきたということはやはり私達の手でもう一度人間性が、豊かな心が、思いやりのある心が育つような環境そういうものを作り変えていける。そういう世界も描けるのではなかろうかということで、今、世界的にとりくみをしております。地球的な砂漠化を防ごうではないか、アフリカ難民を救済していこうではないか、世界中で取りくもうではないか。という事も人間性を回復していこうというきざしではないかと思います。かなりの早さで日本が文明開花以来、合理化を重ねてきた反面、科学の進展とともに私達にプラスの面も与えてきたわけです。そういう事から私達も良い面と悪い面の使いわけをしていかなければならないのではないか、経済性を求める反面人間性も残していかなければならないのではないか。この辺が現在の臨教審が取りくんでいる姿でもあろうかと思います。壮厳たる教育論議をという事で長洲知事が提唱されました。現在神奈川県全域にわたりましてこの運動が展開されてきております。神奈川の教育を推進する県

民会議の代表の方が触れ合い教育運動について、触れ合い教育運動、それは現代の豊かな社会の光と影の、影の部分の中にあるさまざまな教育問題の解決につながる重要な運動。ふれ合い運動というのはそういう運動ではないであろうか。社会の中でお互いが出逢い、お互が感性を触発し合いながら他の生命とともに共存していく、そういうプラスの感情、例えば喜こび、親しみ、生き甲斐、そういうものをお互いに求め合っていく、そして又、お互いに高め合っていく。そういう日々を暮らしていく。それが総合教育ではないのか、この教育を、ともに育つ教育の活動にしていくべきではないか。といっておられます。更に今の子供達に生きる力、これからも生きぬいていく力を体得して貰いたい。自立と連帯活動の体得、発達段階に応じた成長体験の体得もしてほしい。

こういうことが言われていますが、実際に現代の子供達がそういう環境にあるのかどうか、という裏づけをお話したいと思いまして、大和市教育研究所で、市民の教育意識に関する調査を行ないましたので、これをお持ち致しました。全部は出来ませんのでこの中からいくつかご紹介致します。

これはどうして意識調査をしたのかと申しますと現在大和市では、大和市の教育目標というのを定めています。この教育目標を定めた時間がかなりたちまして消費は美徳の時代はもう過ぎてしまった。現在は見直しをしなくてはならない時期ではないかということを背景と致しまして、現在教育目標も含めて、大和市の教育はどうあったら一番市民の方々に喜こばれるのであろうかという見直しをしようという意識調査をしました。

家庭教育　学校教育　社会教育（生涯教育を含めた）の三つの柱で調査しました。

①家庭教育で、**いまの子供の性格について**の問でねばりがないと答えたものが25.7％、思いやりがない18.3％。で、これらを自身の問題というようにとらえまして、これを主体的な生活態度というように考えますと主体的生活態度①ねばりがない　②自発性がない　③落ち着きがない　④積極的な気がいがない。が非常に多いわけです。これは自分の側から積極的に対人とのとびこみが出来ないと考えているお父さん、お母さんがいらっしゃるということです。

こういうことから考えていきますと自分が触れ合い運動をしなくても積極的に対人関係を盛んに、心を通じ合っていくという事がつくりにくい世代なのではないかというように受けとめられます。ねばりがないと答えたのが小さい子供達の場合は一番多かったのですが、学生になりますと思いやりがないというのが一番大きな数字になっています。こういうことからみて中学、高校生ぐらいになりますと〝自分がよければ〟いやなことは見て見ないふりをしてしまう。という現代版の社会生活にすこしずつ慣れてきてしまっているといえるのかもしれません。

親と子のふれ合いについて　親の側からふれ合いについて考えている、願っている、という数字です。話し合う（出来るだけ食事時や食後に団らんする。親と子の会話を多くする）というのが多いです。現代は親子のふれ合いがないのでふれ合いを高めていかなければいけないのだというような積極的なつながりを持とうと努力をしていきたいという考え方はあるわけです。

中学生をもつ親の態度で一番多いのは、責任をもって物事を遂行させるようにしたいで36.3％

子供の個性をみきわめて育てる21.3％。ですが個性をみきわめてという事は非常に難しいことです。個性も重要ですが全体の中の自分は何なのかという位置づけをもっと出していくべきではないか。という考えもあります。又厳しい態度でのぞむということが数字の上では低くなってきています。これが放任主義につながらなければよいと思います。

大和市も最近、市民まつり、コミュニティーセンターの建設等を通じまして郷土意識を高めてお互いに市内全員が触れ合いであるという高め方をしたいと努力をしております。

大人、お年寄りの方々が楽しみながらこれから育ってくる小さいお子さん達に思いやり、物の大切さ、物の有難さといったことを伝えていく必要が

あろうかと思います。そう意味でこれからも触れ合い運動、触れ合い活動、こういうことはやっていかなければいけないのではないか。そして古い時代のよかった物を取り戻していかなければいけないのではないか、というように思います。

≪委員会報告≫

プログラム委員会　　副委員長　有沢昭二君

11月のプログラムにだいぶ変更がございますので御訂正お願い致します。

11月7日　上田利久君「小児科の窓から」

11月14日　津田パストガバナー「決議23―34の行方」

11月21日　斉藤隆寿地区財団委員「ロータリー財団について」

11月28日　太田一穂氏（日本ビクター大和工場開発部)「ＣＤプレーヤーの開発から発売までの推移」

親睦活動委員会　　委員長　上村幹雄君

四クラブ合同ソフトボール大会が11月3日に座架依橋下の座間市営グラウンドで座間クラブのホストで開催されます。つきましては皆様多数の御出席をお願い致します。

≪お祝≫　おめでとうございます！

5年皆出席	二見　長幸君		
御夫人お誕生日	種ケ島　実君	朝子夫人	(11月3日)
結婚記念日	潘　桂柳君	枝美子夫人	(11月6日)
	近藤冨士男君		(11月3日)
	鈴木久次郎君		(11月3日)
	後藤　定毅君		(11月3日)

思いがけない喜び

「幸福とは人間の特性の一つで、必死になって探しても見つからず、思いがけない場所に不意に訪れるものである」

ポール・ハリス

≪スマイルボックス≫　委員長　古川　巌君

岩田　章君（東京町田）久しぶりにお世話になります。

石黒　茂君（町田中）再三にわたりお世話になります。

渋谷米吉君（綾瀬）お世話になります。

星　幸男君（大和）本日も宜しく

黒田忠男君（大和）お世話になります。

竹中滋治君（大和）本日も宜しくお願いします。

土屋　巌君（大和）少々気がひけますので。

小泉和夫君（大和）お世話になります。

山地旦士君（大和田園）本日はお世話になります。

上田利久君　　大和市教育委員会社会教育部長井川博之さんお忙しい処ありがとうございます。今、私達が一番知りたい問題　ふれあい教育について卓話をいたゞけます事を感謝して。

古木勝治君　　本日はお忙しいところ大和市の井川社会教育部長さんに卓話においでいたゞきました。皆さん宜しく。

鈴木久次郎君　結婚祝ありがとうございます。28回目です。益々女房の孝行に励んでおります。

二見長幸君　　5年皆出席のお祝有難うございます。

潘　桂柳君　　カミさんの誕生日を祝って下さるのはロータリーのみです。我が家では忘れられています。

橋本健彦君　　ホームクラブ欠席ばかりで申し訳ないです。

前原一男君　　潘先生　先日はありがとうございました。お蔭様で気分的にも安心して毎日過ごせるようになりました。

伊藤英夫君　　同級生が鎌倉市長に当選しましたので！

事務局高橋女史　清水さんより特製のタワシと本をわけていたゞきましたので……。これですこしスマートになれるかもしれません。乞！ご期待